

郵政産業ユニオン さ っ ぽ ろ

発行

郵政産業ユニオン札幌支部

発行責任者 川守田英男

郵政ユニオンみらい 講座、成功渾に終わる

5月25日から26日の2日間、東京で開かれました。全国から約60人集まり、北海道から4人が参加しました。将来の組合役員の育成の目的で開催されました。



はじめに、「要求で非正規社員の正社員化や均等待遇などは労働相談パワハラ、雇止めなど山のようになっていく。相談に答えることもやってきた」という廣岡委員長のあいさつがありました。また、「65歳雇止めや高齢

再雇用拒否の裁判、神戸西や苦小牧などの非正規社員の雇止め裁判をやっている」、「たたかいて勝つためには法律を活用した運動も必要だ」とも述べました。

つぎに、平井哲史弁護士から、労働組合と労働法の話がありました。「労働組合は、憲法で保障された存在であり、団結する権利があり、団体交渉ができ、団体行動ができる」。「労働組合に期待される役割としては、ルールが守られているか監視すること、民主主義を守ること、社会問題について学び、それを職場に広げ、社会に訴えていくことが大切」と指摘しました。

「使用者側により不当労働行為がなされた場合は、労働組合が地方労働委員会に救済命令を求めて申し立てることができるとも述べました。

その後、全国各地からフリートークの発言があり、札幌支部の岩倉執行委員は、「若い組合員がもっともつと入ってほしい」と発言しました。

さらに、札幌支部の期間雇用社員は、「仕事のマニュアルが無い。言い伝えだけでは困

る」と悩みを話しました。夜は場所を変えて交流会があり、日頃の職場の話で盛り上がりました



札幌支部の参加者の感想は、「組合活動で活かしたいです」。遅くなりましたが「沢山のカンパをいただきました、ありがとうございます」

お知らせ

第2回郵政産業ユニオン

札幌支部定期大会

8月10日(土)14時~17時。

雇止め、セクハラ、パワハラ、営業など労働相談を受けています。手紙かメールで。

yusanro_sapporo@hotmail.co.jp



定年退職した福島市郊外に住む友人が来訪した。夫婦でマイカーを持ち込み、道内を巡っているという▼雄大な自然、長大な道路、山海の味覚。本州では味わえない旅情を満喫しているようだ。だが、話が原発事故に及ぶと表情が一変する▼福島は事故原発から約60km北西の風上。現在も放射能は毎時1μSv程度あり、嚴重に人の立ち入りが規制される「放射線管理区域」より高い地域もある。事故は過小評価され市民が被曝させられ続けている▼甲状腺がんと「確定」した人は12人、「がんの疑い」は15人。小児甲状腺がん発生率は262倍。チヨウの個体異常率60%。これらはほとんど報道されない▼札幌と怒りをあらわにした▼札幌市・泊原発間は、福島市・福島原発間とほぼ同距離。しかも風下。泊で一旦事故が起きたら、友が堪能した札幌、北海道は一瞬にしてかがやきを失う